

企業を訪ねて 14

小川コンベヤ株式会社(コンベヤ搬送システム)

「産業界のニーズに応じた搬送システムを設計・製造し、生産・出荷
効率向上に貢献」

平成30年2月5日に長岡市の小川コンベヤ株式会社代表取締役社長の小川智史氏をお訪ねし、お客様の求める製品づくりについて伺いました。



小川 智史 代表取締役社長

聞き手：古口日出男 副学長(地域産学交流センター長)
◆日頃より本学の事業にご支援をいただいております。初めに、貴社の理念やものづくりへの想いについてお聞かせください。

小川氏◇企業理念は、お客様の困り事を搬送機械で改善し社会に貢献したいと考えております。今年で創業61年になり、創業時は農協米倉庫向けの荷揚げおろし用のコンベヤなどを手掛けていました。その後の高度経済成長期の産業機械の変化に応じてコンベヤシステムを提供し、現在に至っています。当初はユーザー客から直接注文いただく形でしたが、バブル経済の前後から物流倉庫のコンベヤラインの一部を機械ゼネコンなどの業者から注文いただく形が多くなりました。しかし今は大半をユーザー客から直接から注文いただく形に戻しています。これは、ユーザー客の困り事を正しく理解し、お客様と深い信頼関係を築き、お客様に最適な搬送システムを提供するためです。

◆事業の特長や新しい取り組みについてお聞かせください。

◇当社の事業は、個々の企業ニーズに合わせた製品づくりが必要となります。設計の際は搬送物の形や大きさ、流れる量、作業の流れ、建物の配置や人の動き、出荷伝票システムとの連動など様々な条件を考慮します。納品後、ユーザー客より、搬送システムの導入により仕事の流れが良くなったとお話いただくと、とてもやりがいを感じます。また、導入後にこの流れをもう少し改善してほしいなどのお声をいただいた場合は

その改良も手掛けるとともに、今後の設計に活かしています。同じような製品を生産する工場でも、お客様によって企業理念や仕事の仕組み、企業の伝統などで機械の仕様がかなり違ってくことも多いです。

最近はお客様の人手不足問題に対し、センサー検知やバーコードでの振り分け搬送、条件によってはICチップの組込みなども考え、新しい技術を取り入れてお客様に提案しています。

業務は工場の出荷ラインの搬送システム設計と納品までがメインとなりますが、設置後のメンテナンスも重要な事業になります。的確なメンテナンスを行うことにより生産パフォーマンスの維持・向上が図られますので、その技術者の人材育成に力を入れています。新しい知識だけでなく、今まで積み上げられた技術を含めてカスタマイズできる適応力が大事と考えています。

◆小川社長様は本学で学ばれ、本学の同窓会長として大変貢献いただき感謝しております。

◇同窓会は、卒業生が久しぶりに顔を合わせることができ、大事な組織です。互いのプライベートや仕事の話をするだけで働き方や人生についての発想が豊かになると思います。同窓生の親睦の機会を多くし、交流を深めていきたいと思っております。同窓会として学生にプラスになる事業支援やアドバイスなどもできればと考えています。

◆学生たち若者に求めること、また本学に対して期待することはどのようなことでしょうか。

◇学生は3D CADを学ぶと思いますが、実際の仕事では2D CADも多く使います。平面⇔空間を上手く転換表現してお客様に理解いただき、提案することが大事になります。学生時代には様々なものづくりに取り組み、失敗と成功を繰り返し、適応力や応用力を磨いてほしいと思います。当社はお客様のニーズに合わせ、要点を見極め、生産活動をいかに効率良く行って頂けるかを心がけており、学生時代の経験はそれに繋がってくるものと考えます。

仕事ではシーケンス制御の技術を多く活用するため、その知識や技術も大事になると思います。実験実習を通して社会に出て活用できる技術習得に期待します。

基礎学力については勿論大事ですが、実験実習のほかサークル活動などの課外活動でもよいので、何事にも興味を持ち、取り組む姿勢を身に付けてほしいと思います。未知のものでも挑戦し、能動的な気持ちを持って物事をまとめていける学生の育成に期待します。

◆お忙しい中、大変貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。